

## 震災時の取組み—ライフラインの一翼を担う企業として

この度の東日本大震災において被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

### ◆ライフラインの要となる燃料油を供給するために

この度の震災は、地域の産業とくらしに幅広い商品・サービスを提供している当社にとって、あらためて自らの責任と役割の重さを痛感する出来事となりました。

震災直後、被災地は電気・水道・ガスのライフラインがすべてストップすると同時に、極度の燃料不足に見舞われました。

その中で当社は、救急車・消防車・警察などの緊急車両、病院・官公庁の自家発電機、緊急物資を輸送するトラックなど、車両・施設に燃料を供給するため、被災していない油槽所を最大限に稼働させ、供給を続けながら、被害の少なかった塩釜貞山油槽所の復旧に全力で取り組みました。

そして震災発生から1週間後の3月18日、操業を再開し、病院や緊急車両専用給油所など、緊急性の高い施設への供給を開始しました。また3月24日には塩釜港に石油タンカー第一便を迎え入れることができ、燃料の安定供給に道を開きました。

LPガスの供給では、震災の影響によりLPガスの安全装置が作動し、ガス栓が自動遮断され供給が停止していました。その様な中で、当社は各支店からガス保安要員を被災地に集結させ、自動遮断したガス栓の開栓復旧活動を震災発生直後から速やかに行いました。また、沿岸地域のLPガス充填所も津波の被害によりLPガスの供給が出来ない状況になっておりましたが、被災していない内陸部や日本海側のLPガス充填所からLPガスを配送し続けたことにより、安全・安定供給に努めました。

当社では、災害時でも給油が可能なガソリンスタンドを設置しており、震災直後から緊急車両に優先的に燃料を供給しました。また、一般のお客さまは、家族親戚の安否確認や食料の買出しなど差し迫った事情を抱えてガソリンスタンドに並ばれました。その中で、当社は供給制限などの制約を受けながらも、より多くのお客さまに燃料をご提供するために店舗の営業状況を毎日ホームページより発信し、4月9日には75カ所中65カ所で通常営業の再開にこぎつけました。

### ◆医・食・住の安心を届けるために

震災は食料・物資不足も招きました。生産・流通・小売を担う事業者の多くが被災したため、スムーズな供給ができなくなったのです。

当社のスーパーマーケット「グリーンmart桂店、利府青山店」では3月12日から店頭販売を開始しました。両店は、寒い中、食料や生活用品を求めて店に並ばれた多くのお客さまに限られた商品の種類、数量でありながらも毎日ご提供し続けました。

一方、津波の被災地では服用している薬も持たず、着の身着のまま避難した方々が病院に駆けつけるという事態が起きていました。当社グループは62カ所の調剤薬局を運営していますが、石巻店・気仙沼店など4店舗が津波の被害に遭いました。そのような中、気仙

沼店の薬剤師が気仙沼市立病院にボランティアで入り、同病院薬剤部を支援しました。また地域医療の拠点となった石巻赤十字病院にも、仙台市内の店舗から当社の薬剤師が応援に入り、日曜祭日も開店して患者さまに対応しました。

また内陸部では、多くの建築物が地震でダメージを受けました。マンションやオフィスビルなどは、安全性が確認されなければ住むことも働くことも叶いません。当社は宮城県の要請を受けてグループ会社から応急危険度判定士を派遣し、建築物に入っても大丈夫かどうかの判定業務に協力しました。